
玄馬の約束

みやお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

玄馬の約束

【Nコード】

N1955R

【作者名】

みやお

【あらすじ】

「早乙女乱馬はどこだ？」

と現れた女。

彼女は乱馬の…？

彼女たちが巻き起こすいろんな問題！？

登場人物 - 前半（前書き）

可憐たちに関しては、矛盾していますが…目をつぶってください…

とりあえず、乱馬たち（オリキャラ意外）は簡潔に。

12話までに登場するキャラたち

登場人物 - 前半

早乙女乱馬：水をかぶると女になっちゃうフザけた体質。

早乙女玄馬：水をかぶるとパンダになっちゃうフザけた体質。乱馬の父。かなりスチャラカ。

天道あかね：乱馬の許嫁。

天道かすみ：あかねの姉。かなり天然。

おばば（可嶮）：シャンプーのひい婆ちゃん

シャンプー：可嶮のひ孫。

九能帯刀：ド変態。校長の息子。

響良牙：水をかぶると黒ブタ（Pちゃん）になっちゃうフザけた体質。超方向オンチ。

九能校長：九能兄妹の父。変態。

九能小太刀：帯刀の妹であり、校長の娘である。兄に次ぎ変態。

久遠寺右京：乱馬のもう一人の許嫁。

桜川柚月：前作（止水桶、開水釜の掛け勝負）にて登場した主人公^{ヒロイン}。
敬語を使うことが多い。

桜川美也子：柚月の姉。性格が悪い。パンスト太郎（変身前）を倒す実力がある。

桜川明依羅：柚月、美也子の姉。性格は良いとも悪いとも言えない。

桜川倭：柚月、美也子、明依羅の父。実は元ヤンキー。

桜川リンス：柚月、美也子、明依羅の母であり、倭の妻である。かなりおっとりしている。

九能麻緒：リンスの妹。泣き虫。

久遠寺澪：リンスと麻緒の妹。かなりあっさりしている。

響凜：リンスと麻緒と澪の妹。極度の方向オンチ。

許婚（前書き）

前作、「止水桶 開水釜の懸け勝負」の続きです

許婚

（ここが風林館高校ねえ）

???「オイ！！早乙女乱馬はどこだ？」

生徒（以下生）「早乙女え？早乙女ならあそこに…」

指を差した先を見ると、おさげの赤いチャイナ服を着た男子生徒が走っている

それを見た彼女は、スタスタと歩いていき、乱馬から約5m当たりのところで立ち止まった

???「あんたが早乙女乱馬か？」

乱馬（以後乱）「そうだ」

???「あたしの名前は桜川明依羅^{さくらがわあいら}。」

乱「桜川あ？どつかで聞いた事あるような…」

あかね（以後あ）「乱馬ったら、もう忘れちゃったの！？この前、
止水桶チスイレンとかいうやつ懸けて戦った女の子の苗字よ」

明「ほう…柚月と戦ったのか」

乱「お前はあいつとどう関係があるんだ？」

明「柚月の姉だ」

乱「美也子と言ったっけ？そいつは？」

明「いちいちうるさいヤツや…」

明「見て、分からんか？」

乱「別に」

明「あいつらは姉妹。そしてお前らより2歳ほど年下だ。そして、
身長も低い」

乱「結局、お前は俺らと同じくらいの身長だから姉に決まってるだろつ。と言いたいのか？」

明「そうだ」

乱「ほんで？あんたの目的は？」

明「お前、早乙女乱馬はあたしの許婚だと親に聞いたもんで、腕試しってわけだ」

乱「あ「許婚え！?!？」」

あ「ちよつと、乱馬！！どついう意味か、説明しなさいよ」

乱「説明つて…知らないもんわ知らないんだよ」

明「と、ゆーわけで手合わせだ」

と言つて、乱馬に明依羅は仕掛けてきた

乱「おっと」

明「ちょこまかと逃げんじゃねえ！！」

もの凄い大声だ

！！

この言葉に一同は、背筋がゾクつとした

そして明依羅は

「もっこかいもんは猛虎開門破！！」

さつき明依羅が言った「ちょこまかと逃げんじゃねえ！！」は、技の一部だったのだ

乱「うっ」

明「きんしきんはくしょう金絲緊縛翔！！」

（そうか…さっきの猛虎開門破とやは、山千拳か海千拳の一部らしいな…）

明「毒蛇探穴掌」
どくじゃたんけつしやう

（おえっ…さすが姉だけあって、キレがちげーな…）

明「なんや、早乙女乱馬、これで終わりか？」

明「家も舐められたもんやなあ」
うち

（舐められたあ？あのクソ親父がまた何かしたのか？）

明依羅の手が緩まった

乱「火中天津甘栗拳！！」

明「白蛇吐信掌」
はくさだてしんしやう

乱馬は服が脱がされ、パンツだけになっていた

あ「あんた、何してんのよ!？」

明「見たか?これが本物の白蛇吐信掌だ!！」

(まあ、お前の親父おやじには劣るがな)

明「鬼神来襲弾きしんらいしゅうだん」

乱馬にカマイタチが飛んでくる

乱「おっおい、やめろ!！」

乱「猛虎高飛車もうこたかびしゃ!！」

シュウ…

猛虎高飛車が撃てない

乱馬の気持ちが悪けているからだ

乱「つく…これでどうだ！！獅子咆哮弾猛虎高飛車あー」

明「さすがだな…負けたよ」

彼女は去っていった

登場！！桜川家

「……そうか…お前も負けたのか」

明「すみません」

「……」それでは、行くのではないか」

ピンポーン

かすみ（以後か）「はい、今行きます」

「……」早乙女玄馬か早乙女乱馬はいますか？」

か「乱馬君とおじさまでですね、ちょっと待ってください」

か「おじさま、乱馬君、お客様ですよ」

乱「客？」

玄馬（以下玄）「はて？」

（誰だ？この人）

（げっこいつは桜川家の…）

「???」お久しぶりですなあ、玄馬はん」

玄「はて、何の事だか」

「???」忘れたんでっか？わいの事」

「???」わいは桜川倭」
さくらがわやまと

(げえっ…こいつって、あの姉妹きょうだいの親父か?)

玄「ああ…」

倭「こっちにおいで」

すると顔が全く同じ女の子が3人現れた

か「まあっソックリ」

倭「右から…」

乱「明依羅、美也子、柚月だろ？」

倭「ほう、中々やりますなあ」

乱「明依羅は背が高く、美也子がそっぽ向いてて、柚月が正面見てるから…」

語尾を濁した

美「ちよつとあんた！失礼ね」

乱「悪い悪い」

倭「玄馬はん、あの約束の事、覚えとりまつか？」

玄「約束？」

乱「今日、一番上のねーちゃんが来て、”あたしはあんたの許婚”
って言ったんだが…どーゆー事だ？説明しろ！！」

玄「そんな約束したか？」

倭「わいが説明したりしよう」

倭「もし玄馬はんの所に男の子が産まれて、その男の子がわいの娘

に負けたら結婚や。つつ約束なんや」

乱「俺は、柚月にも勝ったし、明依羅にも勝ったぞ!？」

明「あれはちょっと腕を見ただけや。本気じゃあないよ」

乱「もう一回戦えって?」

倭「その通り」

倭「それに、まだ美也子とも戦つたらんやろっ」

(めんどくせー)

倭「それでは、明日の放課後あんさん(乱馬のこと)の学校の校庭で待つとりますぞ」

と言って、四人は帰っていった

運命の日（前書き）

ほとんど会話中心です

運命の日

とうとう、明依羅たちとの対決日が来た。

倭「よく来てくれたな」

乱「よく来たも何も、ここは俺の学校じゃねえか!!」

倭「まあまあ、明依羅、美也子!」

二人がやってきた

” ツンツン ”

誰かが倭の頭を突く

倭「なんだよ！！っあ！！申し訳ございません！！！！」

と言って深く頭を下げた

倭の頭を突いたのは、なんとシャンプーのおばばだった

乱「あん？なんで謝んだよ！？」

倭「なんて失礼な事を！！」

お「まあまあ、よかろう倭。リンスを出せ」

倭「はい！！リンス？リンスはどこだ？」

「???」お母さん!!」

と言つて、とてつもなく綺麗な女性がおばに抱きついていた

明「お母さん!?!こんな所で何やってるの!?!」

乱馬には、何が起こっているか分からない

リ「お母さん、シャンプーは元気?」

お「元気じゃ。シャンプー、おいで」

シャンプーがやってきた

リ「シャンプー、こんなに大きくなって...」

乱「オイっ！！お前ら勝手に話を進めんなよ！！」

お「おお！ムコ殿」

お「紹介しよう。わしの娘、リンスじゃ。」

明「そして、うちらのお母さん。っつー事はあんた、あたしのおばーちゃん！？」

倭「失礼だぞ！明依羅。」

お「そうなるな。そして、シャンプーもリンスの娘じゃ。」

乱「シ「えっ!？」」

シ「ひいばあちゃん、おかーさん死んだって言った…」

お「悪かったなあシャンプー。わしが無理言っただよ。」

乱「んじゃ、シャンプーも許婚候補?!?!？」

お「シャンプーが勝てば、ムコ殿の嫁になる」

乱馬はパニくっている。

桜川姉妹とシャンプーが並んでいる。

みんな同じ顔だから、気持ち悪い

あかねには、シャンプーしか区別が付かない

倭「さて、勝負にしないか？」

乱「おっおっ……」

九「おお！！昨日の女ではないか！！」

明「掌風剣^{しやうふうけん}」

九「んがつ」

木に九能が激突している

明「一生そーしとけ!」

と言って、短刀を投げつけた

地面がボコツと盛り上がった

明「なんだ?」はっ

と言って平らにする

ボコツ、はっ、ボコツ、はっ
…

何度繰り返しただろうか、その内地面が動かなくなった

明「なんだこりゃ？人間か…」

持ち上げたもの、それは良牙だった。

明「気絶してやがる…すいほー（水泡）！！」「やめろっ！！！！！！」

乱馬が言ったものの、遅かった

あ「Pちゃん!？」

明「こいつも呪泉郷に落ちた一人だったのか…」

明依羅は、Pちゃんのバンダナを持って

明「とーほー（湯砲）」

あ「良牙君……」

（っ！コイツ、良牙をバンダナ一本で……！？）

良「よくも……よくもあかねさんの目の前で……覚悟オ……！」

良牙の番傘を交わすと

明「コレ、覚えてねーか？岩石弾……！」

良「あっ!？」

良牙が気が付いたときには、もう遅かった

良牙は爆砕点穴をする前に、岩に押しつぶされてしまっていたのだ

明「これでよし」と

運命の日（後書き）

柚月（特殊攻撃派）と、明依羅・美也子（物理攻撃派）の戦い方の違いはですね

柚月「お母さんっ子（リンス派）」

明依羅・美也子「お父さんっ子（倭派）」

一応、設定では倭は暴走族あがり（？）のつもりです（笑）

九能麻緒

倭「さて、そろそろ」

リンスが遮る

「お母さん、麻緒ちゃんは？」

お「確かに……」

リ「ココに来れば会えると思ったのに……残念」

お「ちょっと、待つとれ」

” ツンツン ”

???「Oh〜ダレですか…」

???「Oh!!Mother!!会いたかったデス〜」

おばが突いた相手、それは校長だった

お「麻緒はどこじゃ？」

校「麻緒？あつ!!マツチイなら、出て行きまシタ〜」

お「この、たわけ物が!!」

???「おかーちゃん!!おねーちゃん!？」

お「麻緒！！久しぶりじゃのオ」

リ「まあ！麻緒ちゃん、久しぶりね♪」

（さっき、おばが突つついた相手が校長だとすると、あの麻緒ってヤツはアイツらの…！？）

麻「あつ！！タッチー！コッチー！！どーしてココにいるの〜？」

小太刀（以下小）「誰ですの？お兄様の知り合い？」

帯「ココはぼくの学校です。失礼ですがあなたは？」

麻「タッチイ、コッチイ、ヒドイ！！おかーちゃん！！！」

麻緒はおばに飛びついていった

校「その人はmeのwifeデース HAHHA」

帶小「ええ——！！？！？！？」

（やっぱり…親父、変な約束してなきやあいーんだけどよ…）

九能麻緒（後書き）

これから、だんだん勝負とかけ離れて行きます（笑）

右京

麻「あっ！ー！ウツちゃん！？ウツちゃんじゃないの！ー！」

右「そやけど、誰？」

麻「忘れちゃったかあ…そうだ！ー！^{みお}漣は？」

右「漣っち誰や？」

麻「えっ！？！？」

右「なんでそない驚くねん」

麻「うわーん！ー！おかーちゃん、おねーちゃん！ー！ウツちゃんが…
ウツちゃんが漣の事忘れとる！ー！」

お「零と右京は、どう関係…」

麻「親子でしょ!」

と遮る

…

沈黙を破ったのは乱馬だった

乱「わりいけど、オレもう帰るから。」

倭「でも、勝負が!!」

乱「また、今度…な」

右京（後書き）

関係図

おばば

リンス

麻緒

漣（？）

明依羅、美也子、柚月

帯刀、小太刀

右京（？）

麻緒、泣き虫です（笑）

永遠の迷い子 凍登場!! (前書き)

まだまだ増えるぞ!! おばばの子供w

永遠の迷い子 凜登場！！

「???」ココはドコ!?!」

「???」ひ、び、き…響!!」ココ、ウチの家だ」

(ええっと、カギは…あつた、あつたコレコレ。)

ガチャ

「???」良牙?お父さん?牙瑠?誰いないのー?」

シーン…

「???」ああ…もう誰もいないじゃないの…出かけよ!」

買い物に出かけてきます。

母

(カギかけて、おっし!絶対迷わないわよ!!)

「???」凜?凜!—久しぶりねえ♪」

凜「お姉ちゃん!？」

リンスは持っていたコーヒーをテーブルに置き、

リ「そういえば、凜って小さい頃から極度の方向音痴だったわね」

凜「そうかな?」

リ「学校に行つて来る！！つて行つたと思つたら、学校から連絡があつて凜さんがまだ来ていません！！つて連絡があつたりして…そして次の日に”道に迷つちやつた”とか言つて、ケロッと戻つてくるんだから…」

凜「あはは」

凜「そや！！最近、良牙がお父さんが牙瑠見てない？」

リ「さあ…三人の事だから今、日本中旅してるかもよ（笑）」

凜「ちょっとお姉ちゃん！！それに、牙瑠は方向オンチじゃないし…」

リ「そうそう。今、お母さんがやつてる猫飯店ねこはんでんに麻緒ちゃんがいる

のよゝ
」

凜「麻緒姉が！？連れてってゝ」

リ「凜1人で行かせるといっになるか分からないもの……」

永遠の迷い子 凜登場！！（後書き）

ハッィこんばんわ ♪

もし、漣と凜が姉妹だとすると…

良牙と右京は… ♪

読み直してみたら、なぜか凜が関西弁らしきものを喋っていることが判明したので、訂正しました。

集合！四姉妹！！

リ「ただいま！お母さん！！凜ちゃん連れて来たよ」

お「おお！凜。久しぶりじゃの」

麻「あつ凜だ！お帰り」

凜「お母さんにお姉ちゃん！！会いたかった」

カラン

シ「来々」

リ「漣！？漣じゃない！！」

漣「おかん！？リンス姉！？麻緒姉！？それに凜ちゃんちやうの！？」

麻「漣、会いたかったよー！！」

凜「久しぶり」

麻「そうそう、この前、ウツちゃんに漣の事聞いたら、漣っち誰や？って言われたのお！ー！ビドくない！？」

漣「じゃあないよ。ウチやて右京に会ったの3回しかないけ」

(。o。)

(実の親子が…！？)

(たった3回しか会ったことない…？)

（そーいえば、最近私も良牙に全然会ってない気がするけど…）

お「…とりあえず、付いてくるがよい」

母子が行った先。それは

ウツちゃんの店だった

右「いらっしやいませ〜ってシャンプー！？その後ろの人たち誰や
！？」

シ「お前のおかーさん連れてきた」

右「おかーちゃん！？”死んだ”とちゃうん？」

…

右「あつこの前の姉ちゃんや！！」

麻緒「覚えてくれてたんだ〜」

漣「右京、ホンマに右京なの？」

右「そや。つてか、誰？」

麻緒「ウッちゃんのお母さん。」

右「おかーちゃん…!？」

漣「右京…会いたかったわ!!」

集合！四姉妹！！（後書き）

リンス、よく姉妹に出くわしますね

そーいえば、右京のおーちゃん、どーなっただろ…

従姉弟…！？

乱「ヨーウツちゃん！！ってシャンプーにおぼば、そしてリンスさんに麻緒さん…あとの二人誰？」

右「乱ちゃん！！この人、いきなりウチのおかんや言い出して…」

乱「そうそう、ちょっとお湯、貸してくれねー？」

右「お湯？ええけど、どないしたん？」

乱「コイツがよお…」

乱馬が指差したもの。

それはPちゃん事、良牙だった

ジャバー

????「良牙!？」

良「ああん？」

良「って、母さんじゃねーか!?!」

凜「会いたかった」

（嫌だ！！嫌だ！！オレはぜってー認めたくねー！！）

お「良牙…？お前、凜の息子だったのか…」

シ「あいやー！！私と良牙。従姉弟^{イトコ}ね！！」

良「何イ！？シャンプーとオレが従姉弟だろ！？？」

(やっぱり…認めたくねー!!)

乱「良牙…ついでにあの変態兄弟もな!!」

良「変態兄弟？誰のことだ!？」

乱「あの、変態校長の子供。」

良「ぬぁにい!？」

乱「それに、もしかしたらウツちゃんもかもよ…?」

良「…」

言い返す言葉がない良牙。

この、信じられない事実をあかねが知った時、どうなるだろうか。

恋敵である、シャンプー 小太刀 右京が”従姉妹”ということを知ったら…

従姉弟…！？（後書き）

あゝそういえば、勝負の事、すっかり忘れてましたゝ（笑）

勝負…？（前書き）

時はウツちゃんの店から次の日の放課後。

風林館高校にて、勝負あり。

勝負…？

倭「まずは美也子からいきましょうか。」

（美也子って…あのときパンスト太郎と戦ったヤツだよな…）

（パンスト太郎に普通に勝てる實力…見せて貰うぜ！！）

乱「来いよ。」

美「年下だと思って舐めんじゃね！！」

（おー怖い怖い）

乱「火中天津甘栗拳！」

美「猛虎開門破もうこかいもんは！！」

???「待った！！！」

…？

乱「…親父…？」

玄「桜川君。どこでこの海千拳と山千拳を知ったのだ？」

倭「玄馬はん…ほんまに覚えとらんのですか？」

倭「玄馬はん、あの技は必要ないと言いはって、秘伝書わいにく
れたやんけ。」

玄「はて…そんなこと…とりあえず、桜川君。この勝負で海千拳と
山千拳の使用はなしにしようではないか。」

倭「なっ!？」

玄「これが呑めんと言っのなら、勝負も、許婚もなしだ。」

倭「玄馬はんがそうゆうなら仕方ないわ…美也子、明依羅!海千拳と山千拳は使うなよ」

美「えー…そんな意味わかんねー」

明「お父さんが言っただからしょーがねえか…」

勝負…？（後書き）

完璧に忘れてました…

2回目の待った

倭「ほな、続きやるか」

乱「待った!!」

倭「なんや？」

乱「この勝負って、許婚を一人に絞るための勝負なんだよな？」

倭「そや。なんか問題でも？」

乱「大有りだよ!!!」

乱「この前俺が柚月ちゃんと戦ったとき、柚月ちゃんは中身は”男”だって言っただよ。ついでに美也子も。」

乱「中身が男なら、この勝負する必要はねえだろうが。」

柚「乱馬さんは、そのこと本気で思っていたんですの?」

乱「あぁん? って柚月ちゃんいつの間に!？」

柚「さっきからですわ。中身が男と言うのは、”ウソ”ですわよ。」

乱「えっじゃあ…れっきとした女の子!？」

柚「当たり前ですわ」美也子お姉ちゃんも、明依羅お姉ちゃんも。」

(マジかよ…)

柚「この前、私が乱馬さんと戦った目的は、この勝負と同じですよ。」

乱「あれ、で勝ってたら許婚になってたわけ？」

柚「はい」

（こんな満開の笑み浮かべられたらたまらねーよ…）

倭「うちの子達はみんな”女”だからな。」

乱「あい…」

2回目の待った（後書き）

うわーめっちゃ中途半端だあ
…

約束。対戦！美也子

倭「氣イ取り直して勝負と…」

乱「おっしゃー」

柚「待ってください！！！」

乱「え？」

柚「この前の勝負のとき、”猫拳”を使いましたよね？」

乱「そーらしいな」

柚「お姉ちゃんたちと戦ったとき、猫拳を使わなかったら、私との勝負、やり直してくださいね」

乱「やり直すって…」

柚「だって、私との勝負で使ったものをお姉ちゃんたちの勝負で使わなかったら不公平じゃないですよ。」

（ますますめんどくせー）

柚「よろしいですね？」

乱「おう」

乱馬は否定する余地もなかった

柚「それでは、美也姉との勝負、ガンバってくださいね」

倭「乱馬はん、そうゆうことでよろしく願いますな」

美「つか、もう待ちくたびれたんすけどー」

乱「わかったよ」

乱「火中天津甘栗拳!!」

美也子は素早く交わし乱馬の背後に回る

そして思いっきり蹴る

乱「う」

(この女…なんてパワーなんだ)

美「この女…なんてパワーなんだ」

乱「えっ？」

美「さっき、この女…なんてパワーなんだって思っただろ？」

(えっオレ、なんか言っただ?)

美「えっオレ、なんか言っただ?」悪いけど、あんたが考えてること、全部お見通し。言葉に出さなくても、あんたの心なんて、て手に取

るように分かつちまうんだよ」

乱「猛虎高飛車ダブル乱れ打ち」

（そんな事したって無駄に決まってんじゃねえか！…って…！…この
気でアイツの心が見えない…）

乱「飛竜昇天破」

（いつの間にかアイツの渦に…）

（厄介なマネしやがるぜ…）

（さすがだな…早乙女乱馬。）

その勝負、する必要はない！！

（勝っても全然嬉しくねーよなあ…それにあと3人も戦わなきゃいけないし…そうだ！！）

乱「なあ、お前ら」

シ「なにか用か？」

乱「お前ら3人で戦って、勝った一人と俺が戦うことにしてくんね
」？」

シ「乱馬のお願い、しょうがない。分かった。」

明「っ！お前、何言ってるんだよ！？」

リ「明依羅、お姉ちゃんに向かってお前とは失礼でしょ？」

明「お母さん！！でも…」

り「乱馬君の言うこと、ちゃんと聞きなさい」

明「…」

???「その勝負、する必要はない!!」

乱「誰だッ!？」

???「乱馬…話はあとだ!! いい? あなたたち。乱馬の許婚はあかねちゃんだけ。だから、これ以上深入りしないで。」

シ「何を言う!! ってらんまか? でも邪魔するヤツ、許さない。」

(コイツ、俺を助けに来たのか!?)

???「乱馬、女の子にいっぱい囲まれてるって、お母さんに知れたら、切腹だからね!!」

(おふくろ…?)

シ「あいやー」

(出来る!!)

乱「お前は誰だ？」

????「早乙女鈴^{さおとめ りん}。乱馬の妹」

乱「いつい妹お!!?!?」

バタッ

乱馬は気絶してしまった

その勝負、する必要はない！！（後書き）

鈴、登場完了

イメージは、漫画の方の二人のらんまです♪

登場人物 - 後半（前書き）

15話からです ミ

前半からかなり変わっているので、前半で書いたキャラも変更します

登場人物 - 後半

早乙女乱馬：水をかぶると女になっちゃうフザけた体質。

早乙女玄馬：水をかぶるとパンダになっちゃうフザけた体質。乱馬の父。かなりスチャラカ。

天道あかね：乱馬の許嫁。

天道かすみ：あかねの姉。かなり天然。

おばば（可嶺）：シャンプーのひい婆ちゃん

シャンプー（珊瑚）：可嶺のひ孫であり、リンスの娘。九能兄妹、右京、良牙のイトコ。桜川姉妹は妹にあたる。乱馬の許婚候補

九能帯刀：ド変態。校長、麻緒の息子。珊瑚、桜川姉妹、右京、良牙のイトコ。

響良牙：水をかぶると黒ブタ（Pちゃん）になっちゃうフザけた体質。凜の息子。超方向オンチ。珊瑚、桜川姉妹、九能兄妹、右京のイトコ。実は牙瑠はると言う妹がいるらしい。

九能校長：九能兄妹の父であり、麻緒の夫でもある。変態。

九能小太刀：帯刀の妹であり、校長、麻緒の娘である。兄に次ぎ変態。

久遠寺右京：乱馬のもう一人の許嫁。漣の娘。珊瑚、桜川姉妹、九

能兄妹、良牙のイトコ。

桜川柚月：前作（止水桶、開水釜の掛け勝負）にて登場した主人公^{ヒロイン}。敬語を使うことが多い。倭、リンスの娘。九能兄妹、右京、良牙のイトコ。珊瑚の妹。乱馬の許婚候補。

桜川美也子：性格が悪い。パンスト太郎（変身前）を倒す实力がある。倭、リンスの娘。九能兄妹、右京、良牙のイトコ。珊瑚、明依羅の妹。柚月の姉。乱馬の許婚候補。

桜川明依羅：柚月、美也子の姉。性格は良いとも言えない。倭、リンスの娘。九能兄妹、右京、良牙のイトコ。珊瑚の妹。乱馬の許婚候補。

桜川倭：柚月、美也子、明依羅、珊瑚の父。実は元ヤンキー。

桜川リンス：柚月、美也子、明依羅、珊瑚の母であり、倭の妻である。かなりおっとりしている。

九能麻緒：リンスの妹。泣き虫。九能兄弟の母であり、校長の嫁。

久遠寺澪：リンスと麻緒の妹。かなりあっさりしている。右京の母。

響凜：リンスと麻緒と澪の妹。極度の方向オンチ。良牙の母。

早乙女鈴：乱馬の妹であり、玄馬の娘。中国へ行ったお土産にパンダと呪泉郷の水（男溺泉、娘溺泉）を持ってきた。玄馬に右京の許

婚を取り消せと迫っている。ある目的のために、自ら髪を切った。

> i 2 4 9 6 5 | 2 5 5 6 <

祝泉郷の水ッ！！あんど、パンダー！？（前書き）

長文失礼ッ

祝泉郷の水ツ！！あんど、パンダ！？

鈴「ったく…情けないわね…そのパンダ！何逃げてるの？天道家に戻るのよ。」

鈴「おじさま、この二人が抜け出さないようによおーく見張っててくださいね」

早「分かった」

鈴「私は、ちょっと用事があつて、10分程度で戻ってきますので」

「???」「ココはどこだー?」

鈴「響良牙ね？」

「???」「らんま…か？」

鈴「説明してる暇はないから。」

良牙を抱き上げて或ところに向かった

シ「来々〜あつらんまね」

鈴「ムース、いる？」

シ「ムース、お客さんよ」

鈴「おばば、この二人ちょっと借りていくわね。」

左に良牙とムース、右手にシャンプーを抱えて、天道家へ向かった

シ「らんま、私とデートする気になったか？大歓喜♪」

鈴「違う！それに私はらんまじゃないわ。乱馬は天道家の居間で伸びてるわ」

シ「さっきの女か？離せ！」

鈴「説明は後で。」

鈴「お兄ちゃん、起きたんだね」

乱「お前は…さっきの…で、なんでシャンプーやムースと良牙がここにいるんだ？」

鈴「これ、お土産。中国に行ったの」

乱「パ…パンダ？中国に行ったのか！？なら、パンダよりもっと…」

鈴「祝泉郷の水も大事だけど、このパンダも随分重要な役割を果たしてくれるの。」

鈴「ムース、良牙、お兄ちゃん、お父さんは男溺泉で、シャンプーは娘溺泉ね。はい、これ。」

乱「男溺泉！？」

鈴「そうよ。これで、正真正銘の男に戻れるから。」

鈴「シャンプー、私は乱馬の妹なの。」

シ「妹…？」

鈴「あとで、右京さんと小太刀さんを集めて話すから。」

鈴「お父さん！……！」

玄「はい？」

鈴「右京さんのところに行つて、許嫁の約束、取り消して来てくだ
さい……！」

玄「何を今さら」

鈴「あのねえ……あなたのスチャラカな性格のせいで、息子まで死ぬ
のよ！？と言っても、乱馬^だだけなら助けてあげるけど。」

玄「どういうことだ？」

鈴「簡単なことよ。取り消せたら、命は助けてあげる。でも、取り
消せなかったら私は乱馬^だだけを助ける。」

玄「そんなあ……」

鈴「シャンプー、おいで。行こっ」

乱「どこ行くんだよ!？」

鈴「え?話を付けに行くの。」

右「なんでや!?!うちやて、立派な許嫁やん!！」

鈴「それは、分かっています。でも、乱馬の命にかかわる事なんです。」

小「乱馬様の命？」

鈴「母は、乱馬の許婚はあかねちゃん一人だと思っているんです。」

それなのに女の子に囲まれていたら、母は怒ってしまいます。」

右「それだけやったら、別にええんやないの？」

鈴「もし、万が一、乱馬が男の中の男に育っていなかったら親子共々切腹。」

右「なんや？それ」

鈴「父はこんな約束をしているのです。」

小「まあ！恐ろしや…」

鈴「母が怒った場合、こうなることもあり得ます。ですから、乱馬から手を引いて頂きたいと。」

右「さっきから思いよったけど、あんた誰や？」

鈴「申し遅れました。早乙女鈴、乱馬の妹です。」

右「乱ちゃんの妹やて〜？」

祝泉郷の水ッ！！あんど、パンダー！？（後書き）

右京たち、納得してるのかな？

鈴の目的

乱「なあ…鈴とか言ったけ？お前がさっき言っただこのパンダの役割ってなんなんだ？」

（結構、邪魔なんだけど…）

鈴「直に分かるから。」

乱「それと、なんでお前は俺（おんま）と同じ姿なんだ！？」

（紛らわしいだろーが！！）

鈴「まだ分からないのかしら…パンダと乱子。玄馬と乱馬。」

乱「ますます意味分かんねえ…」

鈴「お母さんにパンダと玄馬、乱子と乱馬が別人だったって事を分からせるのよ。」

その頃、玄馬は…

玄「右京！！頼む！！！」

右「なんでや？なんで今頃言うねん！！」

玄「ばふぉ」

右「…何言つてんねん！！もうパンダとちゃうやん！！」

玄「こりゃあしまった、しまった。ハハハ」

右「…笑う所とちゃうやろ！！！！最初から…最初から…会ったときから…そう言ってくれとったら、諦めが付いたねん！！」

玄「右京…」

右「悔しいねんけど…乱ちゃんの命が掛かってしもうとるけ…」

鈴「明日、お母さんが来るから。」

玄「えっ!？」

乱「そんな!？急に!？」

鈴「いつまで待たせるつもりなの!？お兄ちゃんも知っているでしょっ? 毎晩毎晩、夢の中でも乱馬の事探しているの。」

乱「分かったよ…」

来客！！ドタバタ天道家！？（前書き）

の〓のどか

今回だけ特別に…

ら〓鈴

なんか…思いつきで急展開になりそうな気が…

来客！！ドタバタ天道家！？

の「ごめんくださあい」

か「はい。あっおばさま！いらっしやい。」

ら「キャハ！おばさま！いらっしやい」

の「あら、乱子ちゃん。」

ら「乱馬君とおじさまが、居間に！！」

の「それ、本当なの？乱子ちゃん」

ら「乱馬！おじさま！」

の「乱馬！あなたも……」

乱「おふくろ……」

ら「おかーあさん」

の「えっ？鈴？」

鈴「あのね、私お母さんがお兄ちゃんのところに行くって聞いて、先回りして、ここで待ってたの。乱子として。」

の「そうだったの…でも、ちゃんとお母さんに言ってくれないと、ダメよ。」

鈴「ごめんなさい。でも、今、お母さん幸せでしょ？」

の「鈴…」

鈴「それに、終わりよければ全て良しって言うじゃん！お兄ちゃん、私ばかり喋っててゴメンっ！かすみさん、お昼ご飯の買い物に行きましょ」

か「ええ。」

そう言って、二人は仲良く天道家を出ていった。

の「本当の姉妹みたいね。」

乱「オヤジ、おふくろ。聞いてくれ。俺、あかねと結構する……！」

早「乱馬君……よく言ってくれた……！！……そうとなれば、早速準備をせねば……！」

（おじさん……どこから出てくるんだよ……）

玄「本当か！？乱馬……！」

乱「おお！あたり前だ……！男に二言はない……！」

の「乱馬、ちゃんとあかねちゃんを幸せにするのよ。」

来客！！ドタバタ天道家！？（後書き）

やっぱり…急展開w w

おばさま…あんま乱馬相手にしてないw w

乱馬のバカ

鈴「ただいまゝあれ？みんな揃ってどうしたの？」

の「乱馬がね、あかねちゃんと結婚するんですって。」

鈴「そつかあやっぱり。お兄ちゃん、あかねちゃん。幸せにね。」

乱「言われなくつても、するぜ！！」

早「式は明後日だ！！」

な「あつ明後日！？急いで招待状配らなきゃ！！」

あ「ただいまー」

か「あら、あかねちゃん。おかえりなさい」

早「あかね、式の準備だ！！！」

あ「へっ？式？何の事？」

か「乱馬君が、あかねと結婚するって言ったのよ。」

あ「乱馬が？」

ドスドスドス

か「あかね……ちゃん？」

ドスドスドス

バン！！

あ「ちよつとお乱馬！！！！なんであんたが勝手に決めてるのよ！？」

の「あ……あかねちゃん？」

あ「あっおばさま！ごめんなさい。乱馬は、どこに？」

の「乱馬なら、なびきちゃんと一緒に招待状を配りにいったわ。」

あ「ありがとうございます！」

(まったく…何考えてるのよ！！)

あ「乱馬探しに行ってくるね。」

か「いってらっしゃあい。あっあかねちゃん。ついでに東風先生のところにこの本返してきてくれるかしら？」

あ「分かったわ。」

ガラガラッ

あ「乱馬の…バカ。」

乱馬のバカ（後書き）

あかねちゃんスネちゃったww

ちよつと滅多に焦ることがないなびきちゃんを焦らせてみませた（笑）

イヤになっちゃう(前書き)

東〓東風センセ。

イヤになっちゃう

あ「こんにちわー」

東「やあ、あかねちゃん。今日はどうかしたの？」

あ「かすみお姉ちゃんが、この本を返してきてって。」

東「かすみさんがあ…それより、あかねちゃん。乱馬君と結婚するんだって？よかったじゃない」

（こんなところにまで…）

あ「それは、勝手に乱馬となびきお姉ちゃんが言いふらしてるだけで…乱馬を探さなきゃいけないので、失礼します!!」

（なんか…気まずくなつて、逃げて来ちゃった…ってか早く乱馬たちを探さないと…）

- 風林館高等学校

（あつ乱馬!!）

あ「乱馬!!…こんなところで何やってるの!?!ほら、帰るわよ!!」

「！」

乱「あかね…？どうかしたのか？」

あ「どうかしたのかじゃないわよ！…！どうして勝手に決めたのよ！？」

乱「別にいいだろ？俺ら、いずれ結婚するんだから」

あ「あのね、私にも心の準備があるのよ！…！とっとにかく、帰るわよ。」

（もう…イヤになっちゃう…）

イヤになっちゃう（後書き）

次、まさかのハプニングが起こりますww

注：原作の用に、女の子たちがジャマする訳ではありません。

大喧嘩

あ「ただいまー」

か「あかね、乱馬君、おかえりなさい。お父さんたちがー」

かすみの声を遮り、大声が聞こえてきた。

「早乙女流だ!!」

「いやいや、天道流!!」

「天道君何を言う!!? 早乙女流に決まっておるだろうが!!!!」

「それは話が違っじゃないか。」

あ「お父さん!!? 何やってるの?」

乱「オヤジ、何があっただんだ?」

玄「天道君が今頃になって早乙女流には継がせないとか言ってきて
…」

早「違ーう！！最初は、天道流を継がせる約束だったじゃないの。」

（そんな理由で幼稚な喧嘩してるのか…）

あ「どっちが継いだっていいでしょう？」

玄「乱馬！！荷物を準備せい！！出ていくぞ！！！」

（は？俺ら、さっき結婚するって言ったばかりじゃねえか！！）

乱「誰が行くかあ！そんなもん。」

玄「わしに逆らうのか？」

乱「そんなこと知ったこっちゃねえよ！」

あ「ちょっと乱馬、やめなさいよ。おじさまも。ねえ、お父さん。お父さんから何か言ってるよ。」

早「知らん！！勝手にすればいいだろう。」

居間から出ていく

あ「ちよつとお父さん」

乱「オヤジ！！離せっ！！離せつってんだろーが！！！！」

玄馬は自分と乱馬の荷物を持ち、乱馬を引きずっている

あ「おじさま！！！！」

な「ちよつと早乙女のおじさま。」

あ「なびきお姉ちゃん！！」

な「今までここに泊まってた代金、払って頂戴。」

あ「お…お姉ちゃん？」

な「それと、食費に水道代。合計10万4800円。タダで出ていくななんて言わせないわよ。」

あ「ちょっとお姉ちゃん!!」

な「あかね!これは乱馬君たちを引き止められるチャンスでもあるのよ?これを逃すわけにはいかないわ。」

な「あかねと乱馬君が結婚するんだったら、これはチャラにしてあげるわ。でも!!出ていく場合は、ちゃんと払ってからね。」

(なびき、ナイスフォローだぜ!!)

玄「うむむむ...」

乱「オヤジ、どうせそんな金持っていないんだろ?だったら、残るしかないぜ。」

玄「仕方あるまい...しかーし!!!その代わり、早乙女流を継がせるんじゃ!...!!」

(え...)

ドタドタ

早「天道流が継がないんだったら、出て行って頂戴。」

玄「わしだって早乙女流じゃないんだったらお断りだ！……！」

（また始まった……）

乱「あかね！……どうするか……？この二人。」

あ「どうするって、どうしようもないじゃないの……！」

乱「何かいい方法はないのかよ……！」

か「お父さん、早乙女のおじさま、お茶ですよ。」

早「かすみ、今はいない！……！」

玄「待った。わしは貰う！……！」

早「んじゃわしも。」

玄「マネしないでよ、天道君。」

早「マネなんかしてないよ、早乙女君。」

玄「ガッハッハッハッハ」

早「ワハハハハ」

乱「あかね…なんでこうなるか意味わかるか？」

あ「ぜーんぜん」

頑固者

早「それで、どっちが継ぐの？早乙女君」

玄「早乙女流だろう！！！」

乱「オヤジ！！てめーが引き下がれ」

玄「なぬ！？乱馬、わしに逆らうというのか？」

乱「ここは天道道場だ。天道家が継がなくてどうする？」

玄「ここを早乙女道場に変えればいいだろう？」

（オヤジはどうゆう根性しとるんだ？…）

乱「オーヤージー…そんなこと言うならここから出て行け！！」

玄「乱馬！！今まで誰がお前を育ててきてやったと思ってるんだ？」

乱「オヤジだよ！！でもな、それとこれとは別だ。今まで散々世話になってきた天道家^三にまた迷惑かける訳にはいかねーだろう！！」

早「よつ乱馬君！！それでこそあかねの許嫁！！」

乱「メシ、食えなくなるぜ？」

乱馬が更なる追い打ちをかける

玄「仕方あるまい……」

早「よし！！予定通り式は明後日だ！！」

あ「ねえ。あたし、式をやるって言った？」

乱「え……」

…

な「あかね。こんなチャンス、二度とないのよ」

鈴「どうせ……いずれ結婚しなきゃいけないんだから……」

か「そうよ、あかねちゃん。」

（あたしは、乱馬が勝手に決めたことに怒ってるんですー！！！！）

ドタドタドタ

な「あーあ、部屋に籠っちゃった！乱馬くん、あかねと結婚するんでしょ？どうにかしてあかねと仲直りしなさいよ」

乱「なっ」

か「がんばって、乱馬君。」

鈴「お兄ちゃん、さつき”幸せにする”って宣言したばかりでしょっ？」

（みんな俺任せかよ…）

乱「しょうがねえな…」

（世話のかかるヤツだぜ）

鈴「許嫁として当然のことをするのに”しょうがねえな”じゃないでしょ？」

乱「分かったよ!!」

頑固者（後書き）

頑固者Ⅱ 玄馬 & a m p . あかねちゃん

乱馬、ありがとう。

コンコン

乱「あかね、入るぜ。」

…

乱「あかね？」

ガチャ

あかねは机に伏せている

（寝てんのか？）

乱「あかね、お前何やってんだ？」

そう言つて乱馬はあかねをのぞき込む

あ「乱馬のバカー……」

バシッ

乱「いってー！……！……あかねっ何しやがる！？」

あかねはのぞき込んだ乱馬の顔を思いっきりビンタしたのだ。

乱「天道あかねさん」

…

（コイツ、寝てやがる…）

乱「あーーーーかーーーーねーーーー」

今度は耳元で叫んでみる

あ「ん…ん…あつ乱馬。どうしたの？その顔」

乱「あかね、何も覚えてねえのか？」

あ「あたし何かした？」

乱「お前なあ…さっき、お前の顔のぞき込んだら”乱馬のバカー
ー”って言うっておめえに叩かれたんだよ…」

あ「そうだったの…？ゴメンね」

あかねは乱馬の顔をまっすぐ見て言う。

乱「なっなんだよ」

あかねは乱馬の頬を持って軽くキスした。

乱「／／／なつなにすんだよ！？／／／」

あ「勝手に結婚の事決めた罰よ。」

（まだ引きずってんのかよ…）

乱「罰って…」

あ「私に、正直言って嬉しかったんだ。」

乱「何が…？」

あ「乱馬が、結婚するって言ったこと。でも、なんか急に言われたからちよつと焦っちゃった。」

乱「フウ…よかった。」

あ「えっ何が？」

乱「お前が意地でも結婚しねえって言ったらどうするか考えてたんだ。」

あ「そんなこと考えてたの？ご苦労さま」

乱「笑うんじゃない！俺は本気で考えてたんだ。」

あ「へえ、乱馬だっと思って考えることあるんだ」

乱「考えたら悪いかな？」

あ「別にいい。乱馬、ありがとね。」

乱馬、ありがとう。(後書き)

キスイメージ：シャンプーが女らんまにした死の接吻

もうすぐ終わるー!!ハズ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1955r/>

玄馬の約束

2011年10月8日19時10分発行